

第1章 事業の概要

趣 旨

平成18年に教育基本法が改正され、生涯学習の理念が初めて明示された。これを受けて本県では、平成23年9月に「秋田県生涯学習ビジョン」を策定し、「知と行動が結びついたクリエイティブな循環型社会」の実現を目指している。その第一歩となるのは、学んだことを行動に生かす「行動人」の育成であり、本県生涯学習の目指す人間像として「すべての県民が行動人になる」ことを掲げている。

昨年度の当センターの取組を踏まえ、県民が「学んだ成果を行動に結びつける」気運を高め、学習した成果を波及させていく環境づくりのためには、地域に密着した公民館レベルでの実践を推進することや、市町村を巻き込んだ積極的な広報活動が必要であると考えた。

そこで今年度は、次の二つの視点から調査研究に取り組むこととした。

一つは、生涯学習・社会教育の中核施設として機能する公民館とその利用者の現状を調査し、公民館の事業や運営の在り方について分析することである。本調査においては、地域の公民館において県民が「学習した成果を適切に生かし」、地域の活性化や教育力を高めている事例に視点を当て、公民館及びその利用者からの回答を分析・考察し、また、より多くの実践例を紹介することで、それぞれの公民館がもっている有益な情報の共有を図ろうとするものである。

もう一つは、学びを行動に生かす学習の普及と、行動人の認知度を高める実践研究である。地域活性化を図る学習の在り方や行動人育成のための学習プログラムを開発する。また、市町村訪問による事業説明を強化し、印刷物を配布するなど、具体的な広報活動を展開する。

1 アンケート調査

①公民館調査

「学習の成果を生かす」ことにつながる講座や取組における、現状や課題についての調査を行った。県内で登録されている全200館（公民館類似施設を含む）を対象とした。

②公民館利用者調査

公民館を利用する頻度やその目的と「学習の成果を生かす」ことの実態やその意識について調査を行った。公民館を利用した人を対象に、各市町村当たり50名ずつ、計1,250名を対象とした。

2 実践研究

①モデル学習プログラムの作成

県内の実践事例や行動人自主企画講座等の成功例を基に、人材育成プログラム・地域活性化プログラム等を試作する。

②行動人連携学習プログラムの開発

センター、市町村公民館、行動人等と連携して学習プログラムを開発し、実施する。

③県内の「行動人」の情報収集・発信

「行動人」の取材やウェブサイトへの掲載、「行動人」ポスター・リーフレットによる周知等の広報活動を行う。